

銀杏企画三丁目の掲示板

[トップページへ戻る](#)

Name	<input type="text" value="国土無双"/>	e-mail	<input type="text"/>
Title			
<input type="text"/>			
Message			
<input type="text"/>			
<input type="button" value="とうこ"/>			

[691] チャレンジド・パーソン 2008年5月13日 13時36分

国土無双さん e-mail

国土無双です。

これで、最後です。読まれなかった方も、読んだ方も、国土無双の異常な書き込みお許し下さい。

40校に1万数千人のチャレンジドの児童生徒がいます。彼らは日本の学校制度では養護学校が基本で一般校では法律上いけません。まず、養護学校に行き許可が出れば普通の地域の学校に行きます。ただ、地域の意識がかなり変わってきていて学校によっては障害を持つ子を受け入れるようになってきました。したがって養護学校には一般校では受け止めることができない重度の子供達ばかりが大阪府下に1万数千人集まっているわけです。

パソコンを使用し社会参加促す竹中さんのバイタリティー凄まじいものだと思います。

このネット情報は竹中さんの講演全文掲載したのですが、とても重要なことが書かれています。

パソコンを使用することによって、健常者の方と同じように仕事するチャンスが増える。

英語で、障がい者のことをチャレンジャーではなくチャレンジドと呼ぶのは神から与えられたものだという見解。

少子高齢化社会の中で、チャレンジド・パーソンにチャンスを与えないと、企業も破綻する。

などだと思います。

関西の方のパワー溢れる講演、国土無双も元気になりました。前向きに生きていこうとする姿勢、素晴らしいと思います。

国土無双は今日は疲れて、11時までゆっくり寝てましたが、この講演記事読んで、又、明日から元気に働こうという意欲湧いてきました。

職場は、いい加減、暇になって欲しいものですが、自分の仕事は一生懸命やりたいと思います。

ではでは、長々とチャレンジド・パーソンのこと書き込んでしまいましたが、国土無双の自分勝手な書き込みだと思い皆さん気にせず、趣味の話題などで盛り上げて下さい！！

国土無双も出来る限り、皆さんの話題についていきたいと思います。

今日は台風がくるということで、心配しましたが、どうやら、大丈夫なようです。

銀杏から帰ってこられた方、仕事かた帰ってこられた方、吃驚かもしれませんが、どうかお許し下さい<m(_)_m>

[690] チャレンジド・パーソン

2008年5月13日 13時19分

国土無双さん e-mail

国土無双です。

続きです。

つまりチャレンジドという、今道具がなかなか使いにくい人たち、不可能をたくさん抱えている人たちはまさに可能性の種を持っている人です。不可能をたくさんあればあるほど科学技術に貢献をするわけです。そういう意味でプロップステーションには科学技術とその科学技術をビジネスにしている人達にとってもっとも優秀な種がたくさん転がっているところです。そういつてああいう色々な応援を集めてくるわけです。でもそれを非常に賢明な経営者は信じてくれます。今日明日のビジネスではないけれども10年後に私たちはこれで本当にシェアを広げられるかもしれないと思うのです。日本の少子高齢社会で見えにくくなった、聞こえにくくなった、歩きにくくなったといどこか人に手助けがいるという人たちが増えた社会になります。今の強者が中心の道具ではもうビジネスが成立しないだろうと自覚された経営者の方々が大変強い応援をしてくださっています。さっきのニュースの中で養護学校にコンピュータの情報教育をというものがありません。大阪府下に40校の養護学校があります。これは一般の学校ではなく全て障害を持つ子供達だけが学ぶ学校です。聾学校、盲学校、肢体不自由、知的ハンディ、病弱の学校と5種類あります。この40校を全てをネットワークでつないで情報教育の推進をプロップがやってほしいと大阪府から頼まれました。ところが人件費に該当するお金しか予算は出せないと言われました。全部の養護学校をまわってみたら見たらコンピュータ自身はまだDOSでまだウィンドウズが入っていませんでした。煮染めたみたいなの色で捨ててあるのかなと思ったらまだ現役だったりしました。しかもインターネットにつながってはいるのですが4時間しか使えないと言われました。一日4時間使えれば良いのではないかと云ったら予算は一月4時間だとわかりました。そんなところでどうやって人件費だけで状況を改善出来るのかこれは大変だと思いました。ところが、ここで公的なお金を入れてしまうと公的にしばられてしまいます。公の肩代わりをNPOがするのは変だと思いました。ですからこれはNPOマインドとしては企業などの民間と力を合わせて改善をして素晴らしい次世代のものを生み出さないといけないと思いました。そこでさっそく支援をして下さっている企業の皆さんに声を

かけました。

[689] チャレンジド・パーソン 2008年5月13日 13時16分

国土無双さん e-mail

国土無双です。

ついに11番目までできてしまいました。されど、続き、書き込みます。

しかし、今日本が目前としているのは未曾有の少子高齢社会です。少子高齢社会というのは恐らく私の娘のような状態の人が限りなく増えていく社会だと思います。日本の厚生労働省の統計ではあと15年も経たないうちに2家族のうち1人は必ず介護が必要になるそうです。私は娘の介護を20年していますが平均睡眠時間が毎晩2時間か3時間だったんです。本当に介護にまみれて生きてきました。そういう経験をしている私にとって10数年後に2件に一人必ず介護の必要な家族がいるというのはひとごとではありません。それを支えてきて現に今、国立の療養所でお世話になっていて5、60万円の毎月税金を投入出来る国なんてもうほとんど続かないです。私が娘のような状態になっても恐らくその時にはお尻をふいてくれる人も私が倒れ込むベッドもないだろう。待っているのは働けない人を自然淘汰するという冷たい国なのかなと思っています。そうならないためにどうしたら良いのだろうと一所懸命ない知恵を絞って考えた結果がこういう形になりました。私はたくさんのチャレンジドに娘を通じて出会いました。チャレンジドの中には色々な能力や思いや意欲が眠っているのだなと思いました。なかなかそれを発揮する事が出来ません。しかし、ITやコンピュータ通信は個人を解放し、持っている物をすべて外へ出していく事が出来るようになります。これはすごい道具だなと思っています。ただし、まだまだ使いにくいです。現に私はコンピュータがまだまだだめです。大変失礼な言い方ですがコンピュータはまだ、あほです。私はやっと文字を両手指一本でしか打てないのです。タッチタイピングが出来ません。字を探しながら打ち、漢字の変換もわからないというレベルです。人間の挑戦ではなく私はこれは科学の挑戦だと思います。こういう私が本当に不便なく苦勞なく使えるようになった時コンピュータや科学が正しかったと言えるのではないかと思います。

[688] チャレンジド・パーソン 2008年5月13日 13時13分

国土無双さん e-mail

国土無双です。

続きです。

チャレンジドという言葉に出会ったのは1995年の1月17日に阪神淡路大震災という神戸が全滅するという大変恐ろしい大震災の時です。私も神戸生まれ神戸育ちで家が丸焼けになりその後高齢の両親ともども大変でした。この時にアメリカにいらっしゃるプロップの支援者の方からチャレンジドという言葉を知りました。ハンディキャップでもなくディスアブルドパーソンでもなくチャレンジドでした。チャレンジャーとは違うのかと聞いたところザ・チャレンジドだと言われました。「ed」がつくチャレンジの何で受け身なのときくと、神から挑戦という使命や課題あるいはチャンスを与えられたと

という意味なんだと教えてくれました。このチャレンジドという言葉は決して日本でいう障害者だけを表すのではなく震災復興に立ち向かっている人たちはチャレンジドだという使い方をすると教えて貰いました。ちょうどその時は自宅も丸焼けになり仲間スタッフも全員被災者になるという状況でどうしようかと思っていたのでこの言葉に大変励まされました。プロップステーションでは障害者と呼ばずチャレンジドと呼ぼう、あるいは自分がチャレンジドという自覚を持って生きられるようにしていきたいと思いました。私自身も障害を持つ子のかあちゃんとして自分もチャレンジドで神からチャンスを与えられたという気持でこの言葉を使い始めました。お陰様でインターネットでプロップステーションがチャレンジドと言うので言葉の背景の哲学が少しずつ日本の中でも広がってきたと考えています。

日本版ADAについてですけれど一昨日国会質問でもたまたま取り上げられました。日本は戦後の経済復興を本当に若くて働き盛りの男性が中心になって支えてきました。右肩上がりな驚くほどの復興を日本は遂げました。それは過労死もいとわないというような働き方が出来る、あるいはそれが正しいという理屈で馬車馬のように日本は働いてきたからです。

[687] チャレンジド・パーソン 2008年5月13日 13時10分

国土無双さん e-mail

国土無双です。

長いけど、お許し下さい。続きです。

(会場拍手)

ありがとうございます。という事でニュースを二つ見ていただきました。短い時間なのでプロップの全容を知って頂くのはむりです。結構面白そうだなと思いませんか？プロップの特徴は関西のノリといっても外国の人にはわからないと思いますが。日本は関西と関東でノリが違うのです。関東の人は何かきちんと取り決めや準備をしてある程度成功しそうなとわかったら動き出すというのが日本の中心的なところにおられる方々なのです。私の生まれ育った関西というところではやりたくなったらやってみる。面白かったらやってみる。結果は後からついてくるというのが典型的な関西のノリです。プロップはこの関西のノリでやっています。話は変わりますがあそこでビデオをおねいさんが一人立って撮っておられます。あの方はボランティアで撮って下さっているのですが先程のプロップを支援をして下さっているいろんな企業のうちのひとつで世界の方々もご存じかと思いますがNTT東日本からわざわざ来ました。今日このグランドネットの様子を撮影し収録したものをNTTのホームページで流してくれるという事でボランティアに来ていただいています。五十嵐さんありがとう。(会場拍手)

という感じで応援するとか、されるというよりも本当にお友達感覚でやっています。今その誇りを奪われている人間が誇らしく生きていくということは明日私が万が一誇りを奪われる状態になっても誇らしく生きていける国になるという事なんだなと思います。それを理解して下さる皆さんが応援してくださっています。たまたまその人たちが色々な企業のトップであったり政府のトップの方であったりすると考える凶々しいナミねいなんです。先程から何度かチャレンジドという言葉が使われていたのです。プロップステーションでは障害者と呼ばずにチャレンジドと呼ぼうと声をあげさせていただいています。

[686] チャレンジド・パーソン 2008年5月13日 13時8分

国土無双さん e-mail

国土無双です。

本当に長くて済みません。続きです。

(インタビュー 受講女性)パソコンをこれから触っていったらちょっと不自由なところがあっても出来ることが増えるのではないかと思ったからです。

(インタビュー 受講男性)こういうパソコンを使って可能性が開けるということに挑戦ですね。家にいながら出来るという事ですね。

(ナレーション)パソコンの講習を終了した生徒はこれまでに500人を越えました。このうちおよそ50人が講師やシステムエンジニアとして活躍しています。尼崎市に住む中内コウジさんもその一人です。筋肉が萎縮していく筋ジストロフィーで書類ももてなくなり会社を辞めました。職を失った中内さんに光を与えたのがこの講習会でパソコンの操作を覚えたことです。企業や官庁からホームページの立ち上げなどの仕事に来るようになり、かすかに動く腕と指先を頼りに仕事をしています。

(インタビュー 中内さん)やっぱりインターネットによる情報の収集であるとか自宅から外に出かけられなくても画面上で外を見れたり外の人とメールで話しが出来たりそういうところで絶対世界は広がると思いますね。

(ナレーション)竹中さんは今年4月から国のIT基本政策の一貫として障害者や高齢者を対象にしたパソコン講習を大阪府内で開くことにしています。大阪府内の38の養護学校をコンピュータネットワークで結んで情報教育をする取り組みも始めました。21世紀を迎え障害者をもっと社会に参画出来るようにしたいという夢に向かって竹中さんの活動の輪が広がっています。

(インタビュー 竹中さん)今までの自分達がやってきた活動のノウハウの蓄積を元にもうちょっと大きな仕掛けを色々やって行動に移したい。それが、チャレンジド自身も今まで以上に積極的に動くそのための場をたくさん作っていきたい。一つは講習会でもあるでしょうしお仕事のゲットでもあると思うのです。そこにいろんな今たくさんの方が応援をして下さっているなのでその応援者の層を広げてムーブメントにまでになればいいなと思います。「出来そうですか?」やれます。絶対やれます。

[685] チャレンジド・パーソン 2008年5月13日 13時6分

国土無双さん e-mail

国土無双です。

長くて済みません。続きです。

ビデオ2 NHK関西支局

(スタジオのコメント)こんばんは、6時になりました。1月4日木曜日今年最初のニュースパーク関西です。今年もよろしくお願いします。(途中省略)障害者のためのパソコン講習会です。技術を身につけて貰い自立や就職を支援しようというものです。

(インタビュー 竹中)全ての障害を持った方に色々な力が眠っている。それを引き出す、一番今、適切な道具がコンピュータのネットワークだと思うのですね。

(スタジオのコメント)21世紀にかけの人たちを追いまして。今日からシリーズで21世紀を迎えて様々な夢の実現を目指して地道な活動をしている人たちを紹介します。1回目の今日は神戸から障害者へパソコンの技術を教えることで障害者の自立や就職の支援に取り組んでいる女性を紹介します。

(ナレーション)神戸市社会福祉法人のプロップステーション理事長をしている竹中ナミさんです。障害者の自立を促そうとパソコンの講習会を開いています。

(インタビュー 竹中)全ての障害を持った方に色々な力が眠っている。それを引き出す一番今、適切な道具がコンピュータのネットワークだと思うのですね。ですからコンピュータが上手になるセミナーをやっているのではなく自己実現に向かうための道具としてコンピュータを使っていこうあるいはITを活用していこうというのがプロップの活動です。

(ナレーション)竹中さんの活動の原点になったのは重度の心身障害がある長女のマキさんの存在です。つきっきりで世話をするうち障害者の自立について考えるようになりました。そして働く意欲があれば障害者に出せる仕事がいくつもあることに気づきました。それを具体化するために始めたのがパソコンの講習会でした。交通事故にあって手足の自由がきかない人や脳性麻痺の人などが参加しています。参加者の指導にあたる岡本トシミさんは講習会の一期生でした。中学生の時にポリオに感染し両手が全く動かないため足でマウスを操作します。全くの初心者だったのが今では講師の収入で生計を立てられるようになりました。パソコンは障害者の生活を支える道具にもなっているのです。

[684] チャレンジド・パーソン

2008年5月13日 13時5分

国土無双さん e-mail

国土無双です。

続きです。

インタビュー 石田さん)自己表現ができるということは大きいです。

(ナレーション)ケイアイさんは大阪市東住吉市で奥さんのユウコさんと暮らしています。コンピュータを使えば自宅にいながら打ち合わせも出来るため仕事のチャンスが広がりました。

(インタビュー 石田さん)仕事は一人ですか？

はい。一人で、出来たら見に来て貰います。

(ナレーション)これは石田さんが描いた作品です。俳句とコンピュータグラフィックを組み合わせた作品を石田さんはデジタル俳画と読んでいます。このデジタル俳画が昨年広島県で開かれた国民文化祭で広島県知事賞を受賞しました。

(ナレーション)一方チャレンジドに仕事を依頼した人はどういう感想を持っているのでしょうか。このポスターは大阪寝屋川市で開かれるソールコンサートのものです。二人のチャレンジドの合作です。

(インタビュー 女性スタッフ)有名な方がデザインされたと思われた。知的障害であるがゆえに精神障害であるがゆえに埋もれてしまっているのでは是非是非ひっぱりだして上げたいです。

(ナレーション)2月17日プロップステーションの竹中さんは三重県を訪ねました。厚生労働大臣やマイクロソフトの前社長らとチャレンジドの社会参加について座談会を行うためです。こういった活動がチャレンジドへの意識をかなり変えています。

(インタビュー)いわゆる消費者として差別区別するべきでもないし労働者としても差別

区別するべきでもないと思いますし、取り組んでいない企業は衰退していくと思いません。

(ナレーション) チャレンジドを納税者に出来る日本社会、プロップステーションが掲げる大きな目標ですが市民の一層の意識改革が求められています。

(インタビュー 竹中) チャレンジドが仕事をするというのが今の最大の目標にしているのでたくさんの方が彼らが出来た能力を持っているという事を知って、彼らに期待して仕事をやらせてみようという気持ちになっていただくのが課題です。

[683] チャレンジド・パーソン 2008年5月13日 13時3分

国土無双さん e-mail

国土無双です。

続きです。

ビデオ1 ABC(朝日放送)

(スタジオのコメント) 「チャレンジド」というのは神様から挑戦する使命を与えられた人々という意味なんだそうです。アメリカでは障害を持った方々をチャレンジドと呼ぶのだそうですね。このチャレンジドとコンピュータとの出会いが社会に大きな変化を与えようとしています。

(取材者の質問) 日本でチャレンジドを進める神戸の団体取材しました。チャレンジドというのはすごく素敵な言葉だと思うのですが。

(竹中さんの音声) 私もこの言葉に出会った時そう思いました。

(ナレーション) 神戸市東灘区にある社会福祉法人プロップステーションは9年前に設立されました。障害を持つ人が情報技術を生かし仕事につき、さらには納税出来る社会にしようと活動しています。理事長の竹中ナミさんは長女が重傷の心身障害児だったことから障害を持つ人の自立と社会参加を目指して活動してきました。

(竹中さんのインタビュー) アメリカではハンディキャップという言葉がマイナスのイメージが強いということで「ザ・チャレンジド」という言葉を生み出したように私たちの中でも少しでもポジティブな生き方をしていくためにまず言葉から入っていくのもありなんか考えたのですが。

(ナレーション) チャレンジドにとって自立への重要な鍵となっているのがコンピュータの修得です。障害を持った人でも健常者と競うことが可能になりました。

(ビデオ中の音声、受講生に話しかける竹中さんの声) どうもプロップステーションのナミねえです。よろしくお願ひします。今日は2回目という事なんですけど実はプロップのセミナーで長年勉強をしてきた障害を持つ方が講師をされます。

(ナレーション) セミナーの講師は卒業生。受講生にホームページを作成するための技術を教えています。卒業するとグラフィックやプログラミングなどの次ぎのコースも待っています。

(教えている様子) もしこれを全部選ぶやんか、これをすべてコピーすると.....

(ナレーション) このセミナーの会場ですでにいくつかの仕事を請け負った男性に出会いました。石田ケイアイさんは先天性脳性麻痺をもった人ですがバーチャル工房というグループの一員として仕事をしています。

[682] チャレンジド・パーソン 2008年5月13日 13時1分

国土無双さん e-mail

国土無双です。

続きです。

こういう話は口で言っているだけですとわかりにくいと思いますのでビデオを10分間ほど見ていただきます。このビデオはつい最近プロップステーションの活動取材して下さった日本のメジャーなニュースの番組です。一本目はABC(朝日放送)が今年2月に取材をしたもので2本目はNHKの関西の支局が取材をしたもので1月4日に一年の最初のニュースとして今年のトピックとして放送されたものです。この中で注目していただきたいのはいろいろな障害の人が年齢など関係なく勉強をされているという事です。セカンドチャンスを得るために高齢の方にもお入りいただいています。講師自身、支援者やボランティアに障害を持っている人がたくさんいるという事です。映像の中に出てくる様々な機材やセミナールームあるいは、ソフトウェアは全て支援してくださっている企業からの提供であるという点に注目してビデオを見て下さい。

まえのページ

パスワード 削除番号

powered by **au one**
NET